

陸前高田市在住のママさんフリーライター熊谷蘭子さんが、江刺にインタビューしてくださいました。以下のとおり、熊谷さんのインタビュー記事をこちらに掲載します。

みなさんの笑顔づくりのために

「本には人の心を支える力がある」。そう話すのは、大船渡にある NPO 法人 おはなしころりの理事長、江刺由紀子さんです。一見普通の優しいお母さん。でも江刺さん、行動力がすごいです。地域に求められることを、やり方を変えながら次々と実現させていく姿は、もう尊敬でしかありません。かっこいい！

そんな江刺さんにご自身のこと、おはなしころりのこと、たくさん聞いてきました！



■ やりたいこと・できること・望まれていることを考えて

—— 子どもたちの国語力・読解力の低下が叫ばれ始めた 2003 年、大船渡で子どもたちの読書活動の推進を目的とした任意団体を立ち上げた江刺さん。そこからどんどん活動が広がったそうです。活動の内容について教えてください。

子どもたちに本を好きになってもらいたいと思って、月に 30 回のペースで読み聞かせをしていました。そしたらね、今度はそれを見ていた大人も聞きたいって（笑）。地域の公

民館で気仙の民話を気仙語で話したら、おじいちゃんおばあちゃんにも喜んでもらえました。

震災後も読み聞かせを続けていましたけど、避難所では子どもたちと一緒に過ごし、気持ちをつかち合うことを大切にしました。それから読書活動の推進だけでなく、音読しながらのお茶っこ、読み聞かせ講座や FM ねまらいんラジオの朗読など、本を用いた交流活動も展開していききましたね。

最初は子どもたちのためだったのが、大人たちも参加し、参加者同士が日常お互いに支え合える存在となるよう工夫し、私たち自身も皆さんに寄り添いながら活動を地道に続けてきました。それが社会からも望まれていることだったんですね。

—— 今働いている 20 代半ばのスタッフも、元は江刺さんが読み聞かせをした子どもなんだそう。こうして未来に繋がってくことが、スタッフや会員のモチベーションになっているそうですね。

読み聞かせを始めた当時の子どもたちが、ママになっているんですよ。「あの時本を読んでもらったのが嬉しかったし楽しかったから、自分の子どもを連れてきました」って言うてもらえる。今、目の前のことも 20 年後にまで繋がっているんですね。

そうやって「誰かがやってくれた楽しいことを、自分も時間ができたらやってみよう」ということが続くと、より住みよい世の中になるんじゃないか。小さな繋がりがたくさん増えたら、結果、それが大きなうねりになってよりよい社会になるんじゃないか。そう思っています。

■ 「もし今私が死んだら、娘たちには何も残せない。ならば、しっかり日本語を。」

—— 江刺さんはご自身も双子の娘さんのママで、海外で 16 年暮らしていたとか。大船渡に戻ってくるきっかけ、活動を始めたきっかけについて教えてください。

インドやトルコに住んでいたんですが、1 人で子どもを育てるために日本への帰国を考えました。

いろいろ考えた時、真っ先に大船渡を思い浮かべました。私は大船渡で生まれ育ったので、ここの人たちが優しいのを知っていたんです。地域で支え合ってもらえるのがいいな、

思いやりがある人たちと一緒に子どもを育てたいと思い、子どもたちが6歳の時に戻ってきました。

言葉って、考えたり表現するときの重要な要素じゃないですか。当時いろいろな言葉を使っていた娘たちに、きちんと日本語を伝えたいと思って、日本の絵本の読み聞かせを一生懸命したの。絵本の中の価値観を子どもたちが吸収してくれたら、私がいなくなっても子どもたちの支えになる。迷った時のヒントになる。そう思ったのが活動を始めようと思った原点です。

■“地域が笑顔でいっぱい”というビジョンは変えずに、やり方は社会の流れにあわせる。

—— コロナ禍の今、おはなしころりんではどんなふうに活動の工夫をしていますか？

絵本に囲まれたくつろげる空間で、地域の人たちが交流できるスペース「おはなしサロン」は、週に4日（月・火・金・土）、コロナ対策として一度に入室できる人数の目安を5組と定めて開室しています。みんなで譲り合いながら、おじいちゃんおばあちゃんや親子連れが楽しく交流しています。小学生も宿題をやったりね。

密じゃない状態で好きな本に巡り会うことができたらと、事務所前から「おはなしサロン」前の外で「軒下古本市」を2020年5月から始めました。常時約300冊が並んでいて、地域の人たちにも好評です。

それから、会えないなら手紙があるじゃないか、ということで、同じく2020年5月から「文通」活動を始めました。事業名は「お便りやりとり思いやり」。下は5歳の女の子から、上は80代まで。みんな返事を楽しみにしてくれたり、わざわざ文通相手のスタッフに会いにきてくれたりしました。こうして強い絆ができると、こちらも嬉しいですね。



—— 最後に、子どもたちへの想いを伺いました。

親御さんが絵本を読むときには必ず声に愛情が含まれます。これを耳にすると子どもたちは幸せになりますね。私たちはそのお手伝いをしているのです。

子どもは親の心を映す鏡のような存在だと思うので、親子で笑顔になれる居心地のいい場所を作れたらいいなと思っています。

そして、本には読む人の心を支える力があります。忘れられない絵本と出会える架橋になれば嬉しいです。





実際におはなしサロンに遊びに行ってみると、優しいスタッフの方と地域のおじいちゃんおばあちゃんの雰囲気がとても優しく、笑顔がいっぱいの居心地のいい空間でした。子どもはたくさん絵本とおもちゃに興味津々。私も軒下古本市で、読みたかった本と出会えました。

地域の人たちへの温かい想いが溢れている江刺さん。これからもきっと、「本でつながろう！本で心を育てよう！みんないっしょに」というおはなしころりんの活動は、地域に受け継がれていくのだと感じました。



■ 地域交流図書室「おはなしサロン」



- ◆住所：〒022-0003
岩手県大船渡市盛町字館下 4-3-3
- ◆電話/Fax：0192-47-3931
- ◆開室日および時間：
毎週 月・火・金・土の 10:00-15:00
- ◆図書貸出：ひとり 3 冊まで。
返却期限なし（返却場所は市内に数か所）

※インタビューー熊谷蘭子さんプロフィール



秋田県大仙市出身。結婚を機に陸前高田市に移住した。年の差 5 歳の姉弟の子育てに奮闘する毎日。

一般社団法人トナリノの「ママのためのライティング講座」を受講し、2020 年から活動を始めた新米ママライター。陸前高田市民吹奏楽団のコンサートミストレスとしても活動している。

趣味は読書・手芸・吹奏楽のインドア派アラフォー。